

# ゴミの削減を家畜から考える ～経過報告～

25-1 獣医・衛生 杉野吉治

# 前回までの流れ

## 問題発見

- 研究所業務から家畜のゴミ誤食発見
- ゴミが任地に散乱している。



## 疑問

- 現地住民による家畜の誤食への認識
- お金が絡むので認識によっては、教育・ビジネスの手段になるのでは？

(い・ω・') キリッ

## 実態調査

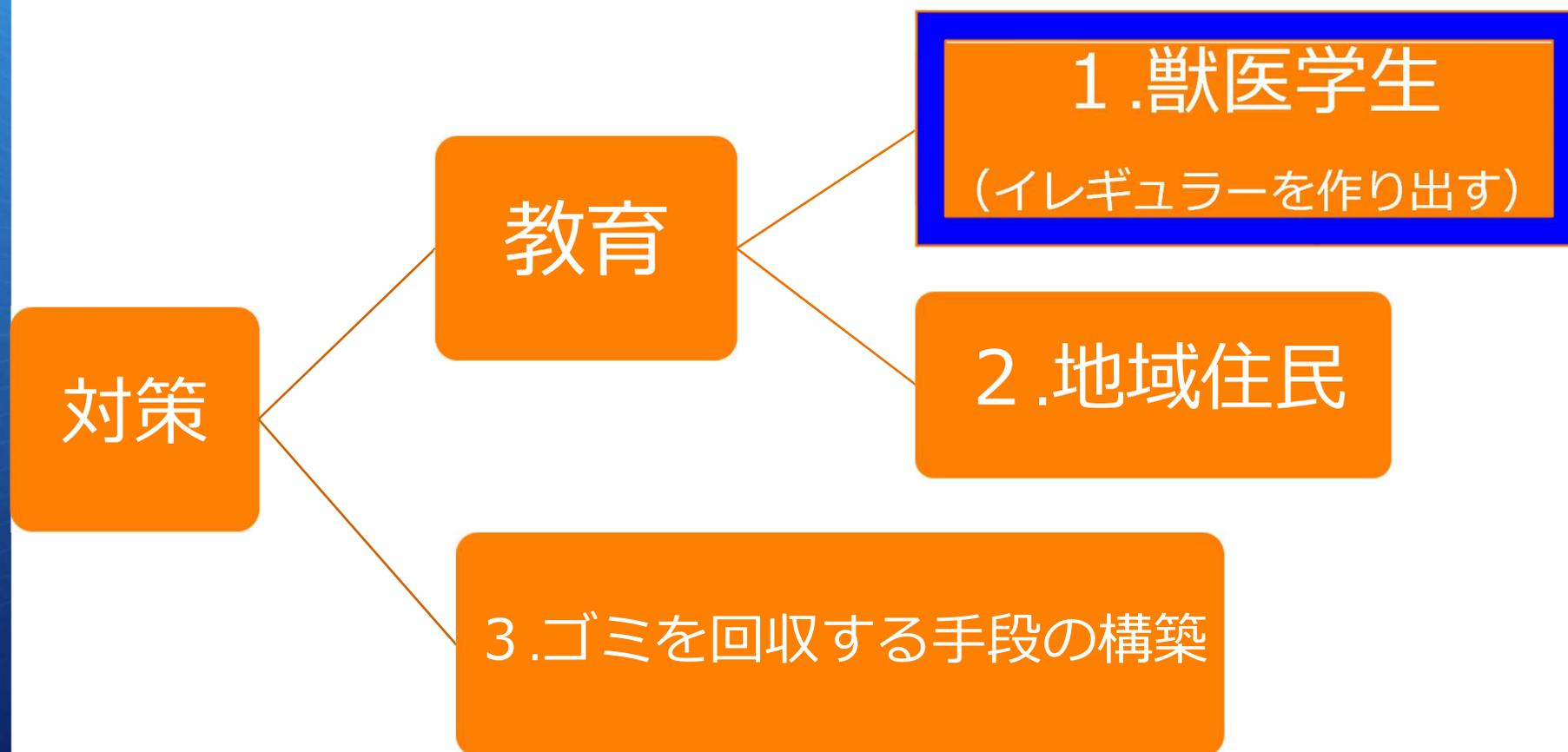
- 任地でアンケート実施

住民の大半は認識していた。



けど、ほぼ何もしてないことも  
わかった・・・('・ω・')ショボーン

# 私が考えたアプローチ方法



# アプローチ 1 ~教育 獣医学校~

獣医学校

学長へ講義オファー

→

承認

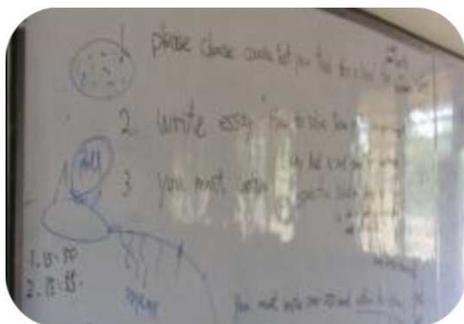
講義

Public health

参加型講義の実施

結果

# 講義風景



## 結果（良かった点・問題点）



学生が自主的に  
寮周りを清掃作業。

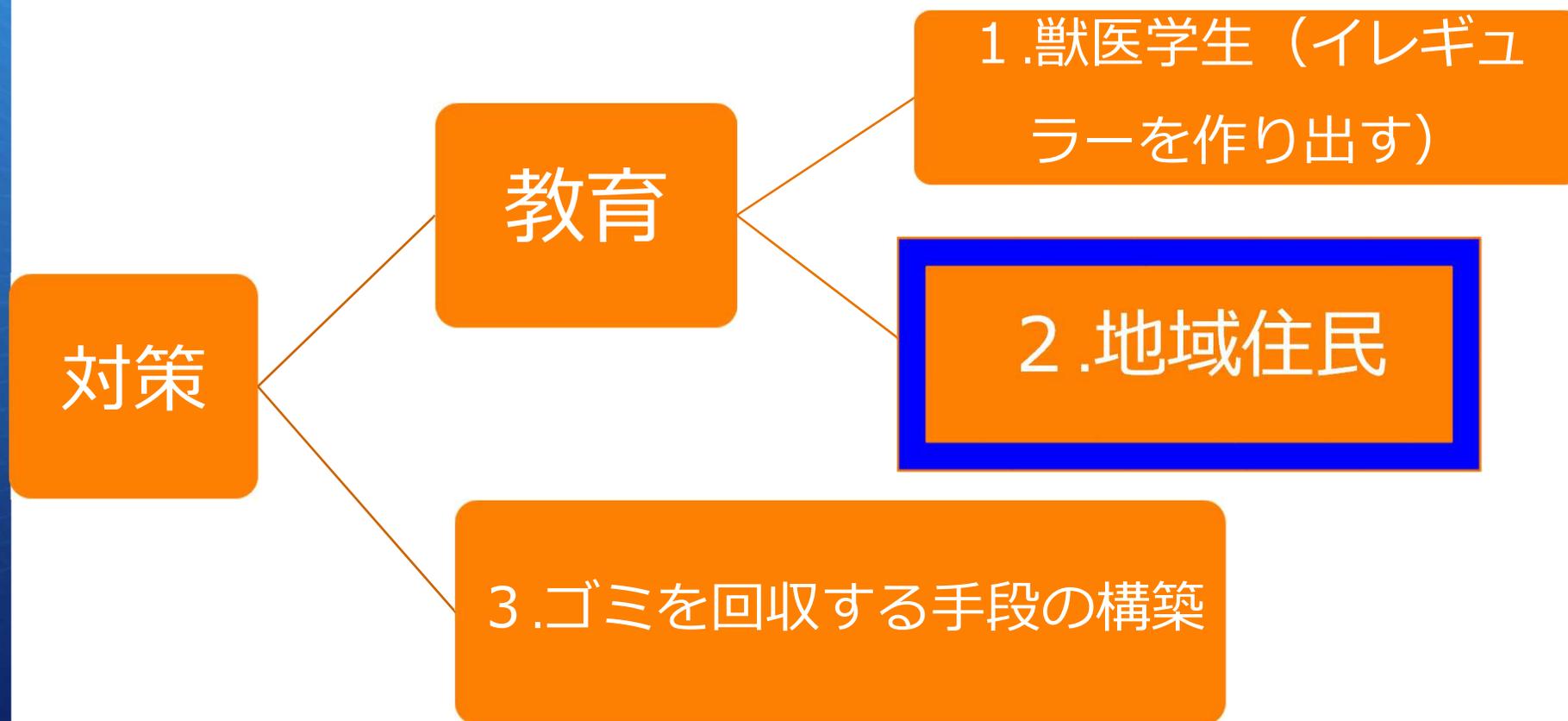
（但しかなり限局的・かつ不定期）



講義形式の見直し

屁理屈ばかりでディベートにならない・収集がつかない  
ガーナ人による監督 or  
レポート形式に切り替え？

# 私が考えたアプローチ方法



## アプローチ 2 ~教育地域住民~

ノーザン州 ボナイリ村

原ゆかりさんから衛生改善に対する協力のオファー

計画

ヘルスチームとのミーティング

マッピング作製

実行

感染症対策隊員と衛生指導ワークショップ（ゴミ清掃含む）

# 衛生指導風景



紙芝居



mapping



Clean up exercise



手洗い指導



Clean up exercise



Clean up exercise

# 結果（良かった点・問題点）



- ・ 地域住民への刺激
  - ・ 同伴した学生への刺激
- ↓
- ・ 今後チーフを通して定期的にした  
いとのこと。
  - ・ 来学期から学校での積極的な清掃  
活動
  - ・ 自分の村でもしてみたいとの要望  
あり。

継続性の不透明さ。

成果と呼べるものが  
現時点では無い('・ω・')



どのように  
モチベーションを維持？

# 私が考えたアプローチ方法



# ゴミ回収手段（会社） 関連の情報

本格的なリサイクル・回収会社は北部にはおそらく現存しない（数ヶ月に1度どこからか回収にくる？）

アクラ周辺には数社あり、ピュア袋1kg/約1.5ghcで回収している模様。（大体500袋くらい(1袋2~3g)）

（上記情報は、石本満夫さんより提供）

試しにルートタクシーの運転手に回収をお願いしたら、業務の傍らで大体数時間で3~40袋回収。

村清掃以外でもちょっとした収入源になる可能性あり。

レバノン人がタマレ近郊で回収ビジネスを開始しようと計画中。（石本満夫さんがビジネス協力）

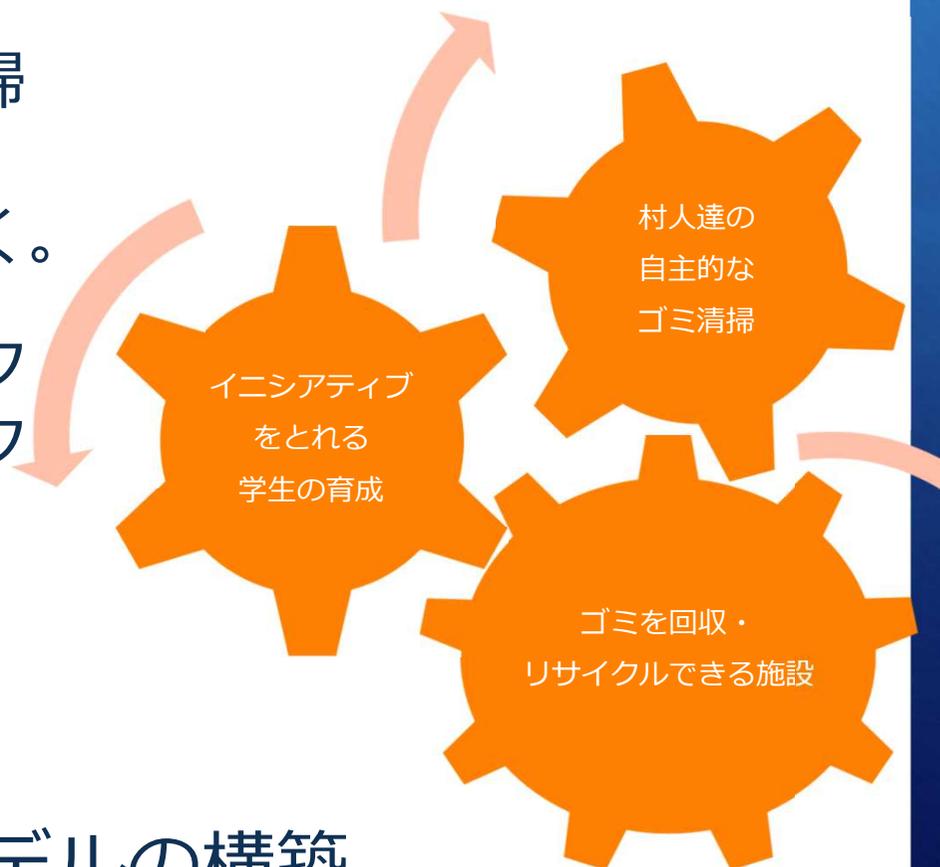
## まとめ ～今後の課題～

学生・村落ともに継続した清掃活動を実施していけるような教育・システムを構築していく。

現金収入になりうる、リサイクル会社の設立・地域とのコネクション作りへの協力



ガーナ北部のゴミ削減モデルの構築



# 今後の計画

村での清掃活動の継続・回収会社情報収集

学生と学校での本格的な清掃活動・講義を継続

学生の村でも活動したい

・（会社との協力？）

自活へシフト

任期終了までに

6-9月



10~12月



1月以降



\* 画像はイメージです



ご清聴ありがとうございました。